

令和4年度

寺子屋事業推進報告書



学習指導 & 指導支援会議



一般財団法人日本ライオンズ

目 次

発行のご挨拶	2
I 寺子屋事業の概要	3
1 寺子屋事業	3
2 児童養護施設	3
3 寺子屋事業の円滑な実施に	3
II 令和4年度事業の実施	4
1 パートナー法人と事業対象の児童養護施設	4
2 事業実施の報告	5
(1) 毎月の活動報告書	5
(2) 3か月に一度の成果報告書	5
III 児童養護施設の事業評価	6
IV 寺子屋事業の初年度の整理	10
1 寺子屋事業の成果	10
(1) 事業パートナーとの出会い	10
(2) 学力向上と精神的成長への期待	10
2 寺子屋事業のが課題	10

編集後記

発行のご挨拶

一般財団法人日本ライオンズ

理事長 不老 安正

AIの進展など、社会が大きく変化する中で、児童養護施設に処遇されている小学生には、学校の学びをより一層深めるためにも、ChatGTPをはじめとした各種の学習等ツールを使いこなせるだけの基礎的基本的な国語の力や算数の力が必要になります。



しかしながら、多くの子供達は、児童虐待等による家庭的な困難さにより、この学校の学びに必要な基礎的基本的な学力に課題を有しているといわれております。

当法人は、令和3年2021年7月から翌年6月にかけて1年間、認定NPO法人Kacotamにご依頼して4児童養護施設での学習支援「寺子屋事業」を試行的に実施しました。

その結果は、「児童虐待等の子供から信頼を獲得するまでにある一定程度の時間を要する。」、しかし「その過程で試し行動がみられるが、その試し行動をしっかりと受けとめながら、関わった結果、少しずつ落ち着いてきた。」、また「その試し行動の段階を経ることで、学習への姿勢の変化が見られるようになった。」、加えて「子供との関係が構築されることによって、分からないところを自ら示すようになったり、自分自身で計画を立てて学習を進めたりと、主体的に学習に取り組むような変化もみられました。」、さらに「学習支援により、できなかったことができるようになり、学習への自信による好循環が生まれるようになった。」との実践的成果を得ることができました。

当法人は、この成果を踏まえて、令和4年2022年7月から、認定NPO法人Kacotam、NPO法人セイブアライフ、NPO法人ITサポート銀のかささぎ、NPO法人こどもエコクラブ飯能Wをパートナーとして寺子屋事業を推進いたしました。

本資料は、当法人がパートナーに依頼して実施した児童養護施設に処遇された小学生の学習支援「寺子屋事業」を整理したものです。

I 寺子屋事業の概要

1 寺子屋事業

当法人は、現在児童養護施設に入所している小学生が、基礎的な学力を身に付け、将来、各人の能力を最大限発揮して豊かな生活を送ることができるよう、学力面において支援することを目的に、手助けを必要とする子供達の支援を行っている NPO 法人への経済的サポート等を通じて、児童養護施設の小学生に学びの機会を提供するための支援を「寺子屋」事業として実施しています。

2 児童養護施設

令和2年3月末として、児童養護施設数612か所、現員は24,539人となっております。児童養護施設は、保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童に対し、安定した生活環境を整えるとともに、生活指導、学習指導、家庭環境の調整等を行いつつ養育を行い、児童の心身の健やかな成長とその自立を支援する機能をもち、ここで行われる養育の大事な役割として施設内での「学習指導」を上げております。

また、児童養護施設に処遇されている子供の特徴として、虐待を受けた子どもは65.6%、何らかの障害を持つ子どもが36.7%と増えていて、専門的なケアの必要性が増しています。このことから、処遇されている約2/3の子供が家庭等での児童虐待において不遇な家庭環境にあったことが分かります。

さらに、処遇された子供は、入所児童の平均在籍期間は5.2年ですが、10年以上の在籍期間の児童が14.6%となっております。このように長年、一般家庭のような親や兄弟姉妹からの心理的に濃密な関係を体験できない子供も多いことから、社会的養護が必要な子どもを、できる限り家庭的な環境で、安定した人間関係の下で育てることができるよう、施設のケア単位の小規模化（小規模グループケア）やグループホーム化などを推進する施策がとられています。

3 寺子屋事業の円滑な実施

寺子屋事業は、児童養護施設に処遇されている小学生を対象にしています。これは、小学生の時期が、その後続く中学校、高等学校、大学等の長く続く学校生活を豊かなものにするか否かを決める重要な時期と考えているからです。そのため、寺子屋事業では、主に、国語、算数等の基礎基本となる教科に着目した指導支援をパートナーの NPO 法人は、一人一人の個性に合わせて無理なく指導する内容・方法を工夫しています。

また、児童養護施設に処遇されている子供達の多くは、本来、心の安定した中で愛情を受けて育ってきた体験の少ない子供達ですので、大人への不信感による「信頼」「親和」「愛情」への疑問を常に抱いております。このことから、子供達との出会いには、専門的な知識を持って臨まなければ、かえってその不信感を増幅させてしまうことにもなります。したがって、寺子屋事業を円滑に推進するためには、寺子屋事業の対象となる小学生が処遇されている児童養護施設との信頼感の中で、かつ児童虐待等の子供理解の造詣の深い NPO 法人にパートナーとして、この事業が円滑に推進されるよう努めております。

II 令和4年度事業の実施

令和4年度は、330 複合地区、331 複合地区、332 複合地区、334 複合地区の13 児童養護施設に処遇されている小学生に対して、小学生への学習支援に実績等のある4NPO 法人に学習支援運営を委託し、当法人寺子屋事業を実施しました。事業費は、1 児童養護施設当たり年間50 万円で事業を依頼しています。

なお、事業については、毎月の活動の対象人数と活動時間・内容を記録した活動報告書及び、3 か月間の個々の子供達への支援の状況変化を整理した成果報告書の提出を義務付けています。

1 パートナー法人と事業対象の児童養護施設

寺子屋事業のパートナー NPO 法人と事業を実施している児童養護施設は、次のとおりです。

複合地区別のパートナー NPO 法人	実施の期間と対象の児童養護施設名
ライオンズクラブ 330 複合地区 (担当 石原) 【NPO 法人 IT サポート銀のかささぎ】 長野県長野市川中島町御厨 1597 連絡先 : 山越久美子 理事長 【NPO 法人 こどもエコクラブ 飯能 W】 埼玉県飯能市原町 125 番地 2 連絡先 : 小林愛 代表理事	令和5年4月実施 ○児童養護施設調布学園 調布市富士見町 3-18-1 令和5年4月実施 ○児童養護施設あいの実 日高市高麗川 1-5-28
ライオンズクラブ 331 複合地区 (担当 小野寺) 【認定 NPO 法人 Kacotam】 北海道札幌市中央区北 5 条西 17 丁目 4-8 ノースファイン N5 701 号室 連絡先 : 高橋勇造 理事長	令和4年7月実施 ○児童養護施設札幌南藻園 札幌市中央区界川 1-6-14 ○児童養護施設柏葉荘 札幌市北区篠路 2 条 9 丁目 1-15 ○児童養護施設羊ヶ丘養護園 札幌市豊平区月寒東 1 条 17-4-33 ○児童養護施設わかすぎ学園 室蘭市母恋南町 5-5-39 ○児童養護施設北光社ふくじゅ園 北広島市西の里南 1 丁目 3-6
ライオンズクラブ 332 複合地区 (担当 岸) 【NPO 法人 セイブアライフ】 宮城県刈田郡蔵王町円田字弁天 38 番地 3 連絡先 : 加藤幸彦 運営委員長	令和4年7月実施 ○児童養護施設仙台天使園 仙台市太白区茂庭台 4-1-30 ○児童養護施設大洋学園 大船渡市立根町字下欠 125-15
ライオンズクラブ 334 複合地区 (担当 橋本) 【NPO 法人 IT サポート銀のかささぎ】 長野県長野市川中島町御厨 1597 連絡先 : 山越久美子 理事長	令和4年7月実施 ○児童養護施設松代福祉寮 長野市松代町東条 108-1 ○児童養護施設恵愛 千曲市大字稻荷山 3842-1 令和5年6月実施 ○児童養護施設おさひめチャイルドキャンプ 飯田市仲ノ町 305-6 ○児童養護施設三歸寮 長野市大字屋島 2373 番地

2 事業実施の報告

当法人が事業として実施している寺子屋事業では、前述したように毎月の事業実績状況を整理した活動報告書と、3 か月に一度、年 4 回、学習支援を受けている個々の小学生に視点を当てた成果報告書を、当法人事務局に報告・提出してもらうこととしています。したがって、寺子屋事業では、毎月の活動報告書は年間 12 回、成果報告書は年間 4 回の報告・提出が義務付けられています。

(1) 毎月の活動報告書

一般財団法人 日本ライオンズ主催寺子屋事業活動報告書様式

令和〇年〇月の一般財団法人 日本ライオンズ主催寺子屋事業の活動実績は、次の通りです。

学習支援に当たる法人名 NPO 法人●●●●

児童養護施設名	活動概要（実指導、WEB 指導、児童の実態調査、教材作成、ボランティアの育成・研修等）	
全体に関わること		
児童養護施設□□		<ul style="list-style-type: none"> • 支援日数 日間 • 支援時間 時間 • 支援児童 名 • 支援者数 名
児童養護施設△△		<ul style="list-style-type: none"> • 支援日数 日間 • 支援時間 時間 • 支援児童 名 • 支援者数 名
総計	総支援日数〇日間 総支援時間〇時間 総支援児童〇名 総支援者数〇名	

(2) 3 か月に一度の成果報告書

一般財団法人 日本ライオンズ主催寺子屋事業成果報告書様式

令和〇年〇月～〇月の一般財団法人 日本ライオンズ主催寺子屋事業の成果報告は、次の通りです。

学習支援に当たる法人名 NPO 法人●●●●

※ 3 か月間の各児童の精神的な変化や学習に取り組む姿勢、学習内容の習熟度等の状況や、ボランティアの成長の状況等も含めて記入してください。

Ⅲ 児童養護施設の事業評価

寺子屋事業の対象となっている各児童養護施設からの本事業に係る評価は、次のとおりです。

○児童養護施設名 南藻園

園長 栗本 信明

様々な家庭の事情があり児童養護施設に子ども達はやって来ます。生まれ育ってきた家庭は子ども達の大切な宝ものであり掛け替えのないものですが、そこでの生活は必ずしも子ども達が望んでいたようなものではない場合もあります。学校に行きたい、勉強をしたい等考えていても、それがままならないこともあります。私たち施設職員は、子ども達に安心できる安定した生活環境を提供できるよう努めるとともに、将来の自立に向けて支援していますが、そんなときに大きな力になってくれるのが学力です。子ども達が学習する習慣を身につけ、豊かな学力を手に入れることで、明るい未来を築くための助けとなり、将来の選択肢を増やしていくことに繋がるものと考えています。

寺子屋事業は、まさに、子ども達の未来を拓く大きな力になるものと考えています。

○児童養護施設名 わかすぎ学園

職員 渡辺 雄樹

貴法人の学習支援により個別に教える機会を設けていただいているため、児童の意向に沿いながら学習を行っていただいております。児童が現在躓いている分野、頑張りたい内容を行っていただき苦手分野の克服と共に学力の向上を図ることが出来ました。また児童から楽しく勉強をすることが出来る、もっと難しい勉強もチャレンジしていきたいとの意見も出ており、学習意欲の向上も図ることが出来ました。

○児童養護施設名 北光社ふくじゅ園

職員 小宮 和樹

日頃、カコタムの学習ボランティアの方に、子ども達の学習を見ていただいておりますが、みんなその時間を楽しみにしております。学習だけではなく、大人としてしっかりと向き合っていただいている様子も見られます。ぜひこういった場がもっと広がればよいなと思った次第でした。

また、それぞれの事情により、学習を頑張りたいけど、ついていけず、苦手意識が強い子が多くみられ、自尊心の低下につながっている様子が窺われます。しかし、現在、個別での学習対応で、その子のペースに合わせて学習を見ていただけるので、子ども達は伸び伸びと学習に取り組むことができています。大人と1対1での学習なので、安心感を持って、取り組むことができ、しっかりとやり取りができるので成長につながっています。今後も支援が必要な子ども達に学習の機会が増えていくことを期待しています。

児童人口が全国的に減少する中で、社会的養護が必要な児童数は、これからもしばらく変わらないという予想があります。児童相談所への虐待相談件数は年間 20 万件を越え、増加し続けています。施設に入所する児童の被虐待経験の割合は 65%超にもなっています。

また、2017 年の「新しい社会的養育ビジョン」の発出により、社会的養護は里親優先（家庭養育優先）の方針がとられており、その結果、施設養育の児童には多くの課題を抱えた高齢児（小学校高学年～中学生など）が増えています。

施設では必然的にこれらの児童の進路を見据えた学習指導の充実が求められています。

心に傷をもち、なかなか学習に集中できない児童は集団での講義受講型の学習が不得手なことが多く、指導には、寄り添い型の丁寧な個別指導と、安心して過ごせる大人や仲間と共につくる学習環境が必須です。寺子屋事業は、施設のこのような児童たちにふさわしいものと大いに期待をしています。

私たちの施設には、児童 35 名中小生が 16 名おります（令和 4 年度）。完全ユニット制で、本園の他に 3 つの分園があるため、1 名の学習ボランティアさんが交代でまわるには、日々の宿題以外には月に 1 度学習の機会があるかどうかという状況でした。

年々、社会的養護の子どもたちへの国や企業からの大学・専門学校進学資金援助が手厚くなり心強いところですが、大船渡市は人口 3 万 5 千人程度の小さい市でもあり、学習の喜びを育む大切な時期である幼児や小学生には何も資源がないとあきらめていたところでした。

仙台市に主体をおくセイブアライフ様より 2022 年 11 月に支援のお話をいただき、地域の皆さんに声をかけたところ、12 月から地域の 9 人の学習ボランティアさんが集まりました。

勉強は「将来の自分のため」だよと言われるけれど、そんな実感はわかず、日々の宿題もやりたくない子も大勢います。しかし、自分の解らないことを丁寧に教えてくれ、分かったら一緒に喜んでくれる学習ボランティアさんとの学習はとても楽しく、どの子どもとても楽しみにしています。

今後も、子どもたちの自立につながる支援をよろしくお願いします。

松代福祉寮では、小学生を対象にしてタブレット端末を利用した学習支援を実施して頂き感謝しております。松代福祉寮は学習支援を色々工夫して実施していますが、基本的な学習習慣が身に付いていない為、苦手意識が高い子が多く、また個別学習が必要な子などもあります。そうした中でタブレット学習は、子ども達 1 人ひとりの学習支援において、大切な取り組みであります。

特に銀のかささぎさんが進めている学習支援は、タブレットで一問一答形式のゲーム感覚で取り組むことができ、その場ですぐに正誤結果が出るので、子ども達にわかりやすく集中して取り組みます。また、以前の学習履歴がデータに残っていて自分で比較することができたりするので、継続した学習にもつながっています。今後デジタル社会が進む中で、小さい頃からタブレットを使った様々なツールを体験する機会を設けることができることは、子ども達の将来にも、大きな影響を受けていくと思っておりますので、今後も、ぜひ続けていってほしいと思っています。

この度、特定非営利活動法人「IT サポート銀のかささぎ」様による学習支援を受けるに至りましたのは、私どもがお預かりする少なくない数の子どもたちに、学力的な課題があったためです。

子どもたちとの日々の関りの中では「学校の授業が分からない」「勉強が分からないから学校には行きたくない」などといった声を聞くことも多く、支援者として何ができるのかを常に考えてきました。

実際に、学習に困難さを感じている子どもたちの「意欲」の低さは顕著で、社会的養護を必要とする子どもたちの傾向であるようにも感じます。大学進学率については、全国平均が50%を超える一方で、児童養護施設出身者が約18%との調査もあります。その要因は様々かと思いますが、大きな要因の一つとして「自信の欠如」があると私は考えています。

これまで私どもも、子ども一人ひとりの能力や発達段階に応じて、個別の学習時間を確保するなどの努力はしてきたものの、恒常的なマンパワー不足もあり、目に見える成果をあげることができない状況にありました。そのような経緯から取り入れた、IT 学習支援には驚かされるものがあります。内容はゲーム感覚で楽しみながら学べるものとなっており、子どもの自信に繋がるスモールステップが特長として挙げられるかと思えます。これまでの成育歴などから、学習に対する自信がない子どもの「はじめの一步」としては有用な動機づけとなりそうです。補足になりますが、当該法人による学習支援は、平日の夕方をお願いしています。猫の手も借りたいこの時間帯にご協力をいただけることに、現場職員から喜びの声が上がっています。今後については、もちろん基礎学力の向上は期待していますが、それよりも子どもたちが学ぶことの楽しさを知る機会になればと願っています。

児童養護施設の子供達は様々な事情により、環境が安定せずに安心して学習をする体験に乏しく、学力低下、意欲低下などの課題を抱えているなど、関わりに十分な配慮を要します。

当施設では学習の取組みに「NPO 法人こどもエコクラブ飯能W」様のご協力をいただいでいて、スタッフの皆様が個別に丁寧に関わり、褒めることもたくさんして下さいます。

「できた！」体験をたくさん積むことにより、自信や意欲を高めることができます。

寺子屋事業にはそうした子ども達の成長を助けていただけますことに期待と感謝を申し上げます。

Kacotam の学習ボランティアの支援を受け、入所児童たちの勉強に対する考え方は大きく変わってきたと感じている。

特に、勉強を行う意義や目的を自ら考え、行動に移す事の大切さに気付くことは本当に難しく、特に施設入所している児童に関しては、勉強よりも、生活を維持していくので精一杯である中、学習ボランティアはそこに気付く手助けとなっている。他にも一緒になって勉強を行ってくれる大人がいる事、支援をしてくれる大人がいる、という事は、子ども達の心に大きな支えとなっている。また、勉強のみに重きを置くのではなく、様々な悩みを相談できる場所としても児童にとって掛け替えのない時間や空間である。

コロナを機に始まった学校での ICT 教育の拡充ですが、当園においてはそれ以前より銀のかささぎさんが子ども達に親しみやすい形で行ってくださっていました。現在はよりニーズの高い特別支援級のお子さんを対象とし、取り組んでいただいています。

子ども達がタブレット教材に親しむこと・それをサポートして下さる人的環境・定期的な活動の確保が重要だと感じています。この三点において今後とも銀のかささぎさんのお力を借りながら取り組んでいければと思っています。タブレット教育に関しては、特に特別支援級のお子さんが 100 玉そろばん等使いながらなんとか興味を持ち取り組んでいた状況から一転しています。良い点としては楽しみながら学習できる点、悪い点としては思考せずに調べることができる環境があることだと感じています。今後のタブレット教育においては、子ども達が適切に学びを深められるよう、周りの大人も理解し、活用したうえで伝えていくことが必要だと感じています。

タブレット学習についての期待

銀のかささぎさんからの誘いで IT 学習体験をさせていただきました。子ども達はすぐに興味を抱き普段見せない集中力で真剣に取り組んでいました。今後も施設で検討しより効果的に家庭学習に取り組めるように子どもの学力向上委員を三帰寮で立ち上げ銀のかささぎさんからのアドバイス等頂きながら児童養護施設での家庭学習の向上に努めていくことになりました。銀のかささぎさんのお誘いに感謝しております。

今後よろしく願いいたします。

この度 一般財団法人日本ライオンズ様からのご支援により、NPO 法人 IT サポート銀のかささぎ様の寺小屋事業を実施することになりました。

昨今の児童養護施設に入所してくる子どもたちの多くは、虐待を主訴としております。家庭にいたときは恐怖に怯え、三食取ることもできず、暖かな布団で熟睡することもできなかった子どもたちです。この子らは本を読んで感動したり、考えたり、さらには学校の宿題をするという、ごく普通の生活体験が不足しているのも事実です。

小さい時から、一人ひとりに寄り添った学習支援の体制ができていれば、子どもたちの可能性はもっと広がるのではないかと思います。

子どもたちに「わかる楽しさ、できたときの喜び」を体験してほしいと願い、この寺小屋事業に感謝申し上げます。

IV 寺子屋事業の初年度の整理

1 寺子屋事業の成果

(1) 事業パートナーとの出会い

当法人は、令和2年2020年、当法人の設立時からこの寺子屋事業に係るパートナー NPO 法人を探すことが課題でした。

そこで47都道府県の児童養護施設を所管する部局ホームページの児童養護施設一覧に掲載されているE-mailアドレスにより、全国の児童養護施設に対して、当該児童養護施設において小学生の子供達への学習支援を行っているNPO法人等があるかどうかをE-mailにより問い合わせの調査をしました。また、同時にインターネットでの「児童養護施設」「小学生」「学習支援」等を検索語としたホームページの検索調査も行いました。

その結果として、児童養護施設において小学生への学習支援をしているNPO法人をいくつか探し当てることができました。次に、探し当てたNPO法人が、当法人の寺子屋事業のパートナーに義務付ける2種の報告書の提出に応ずるかどうかを電話で確かめました。さらに、電話での了承がとれたNPO法人には対象とする児童養護施設との関係もあることから、本事業を担当する者が、直接、当該NPO法人及び児童養護施設の両者と面談して、その了承の下で、当該寺子屋事業を実施することとしました。

認定NPO法人Kacotam、NPO法人セイブアライフ、NPO法人ITサポート銀のかささぎ、NPO法人こどもエコクラブ飯能Wは、このような経緯のもとで、事業のパートナーとなっていただきました。

この寺子屋事業のパートナーとなる4NPO法人との出会いが、この1年間の最大の成果とすることができます。

(2) 学力向上と精神的成長への期待

寺子屋事業の対象の児童養護施設では、処遇されている小学生への学習支援が必要との認識の下、従前より施設職員と理解のあるNPO法人等の支援などにより、処遇している子供達への学習支援が行われてきました。

しかし、近年、多忙を極める施設職員の負担や勤務実態等から、定時的・定期的な学びの機会を確保することが困難になっていたとのことで、本事業を受け入れたことにより、より一層、定期的・計画的な学習支援体制が整備できたとの評価を児童養護施設から頂いております。

また、このことにより、児童虐待等での家庭の困難さから十分に定着していなかった学習習慣の確立とともに、何よりも指導支援する心あるNPO法人の方たちとの触れ合いが深まり、傷ついた子供達の心の癒しにもつながり、精神的成長が見られたとのことが、寺子屋事業を受け入れた児童養護施設の職員等の皆様方からの評価にも記されております。

2 寺子屋事業の課題

現在、本法人の寺子屋事業は、330、331、332、333、334 複合地区で実施されています。

一方、335、336、337 複合地区では、本事業に対応可能なNPO法人等を見つけることができませんでした。このことから、次年度以降は、まだ寺子屋事業を実施していないこの3複合地区での事業実施を図ることを目標にして取り組んで参ります。

その最たることとして、本報告書は、全国のライオンズクラブに配布されます。したがって、この配布により、寺子屋事業の推進に係る情報を得ることができればという期待です。

全国の児童養護施設に処遇されている小学生へ学習支援を推進するためにも、多くの情報をお寄せください。情報提供の連絡窓口は、一般財団法人日本ライオンズの事務局までお願いいたします。

ライオンズクラブ会員の皆様へ、ご支援のお願い

現在、特別支援学校で学ぶ生徒の「全国特別支援学校フットサル大会の開催事業」及び児童養護施設の小学生への学習支援「寺子屋事業」を継続的に実施するために、お一人2000円のご支援をお願い申し上げます。

また、ご支援に関しましては、各クラブ毎におまとめ頂きまして、下記「寄付報告書」にご記入の上、ご送付ください。お願いいたします。

一般財団法人日本ライオンズ 寄付報告書 Ver.01

ご記入日	年	月	日	
振込日 (銀行明細の取引年月日)	年	月	日	
振込金額	円			
地区/クラブ名	地区	ライオンズクラブ		
寄付者情報	メンバー:会員番号 一般 :ご紹介者名			
	法人・個人			
	ご連絡先	電話(携帯)	—	—
		E-mail	@	
所属クラブ連絡先	電話	—	—	
	FAX	—	—	
	E-mail@			
領収書送付先	送付先宛名:			
	〒		都道府県	市区町村
	送付先 ご住所:			
	領収書宛名:			
備考				
振込先	銀行名/支店名	三井住友銀行 東京公務部		
	口座番号	普通預金0178781		
	口座名	一般財団法人日本ライオンズ【ザイ】ニホンライオンズ		
報告用紙送付先	一般財団法人日本ライオンズ E-mail:office@lions-zaidan.or.jp TEL/FAX:03-6262-6108			

編 集 後 記

子供は、可能性の塊です。児童養護施設に処遇されている小学生の多くは、保護者による児童虐待により、身も心も縮こまっているかもしれません。しかし、児童養護施設の職員の皆様方と共に、この子供達に寄り添うことが出来る大人がいれば、子供達が秘めている可能性が可能体になるかもしれません。

私達、一般財団法人日本ライオンズは、小学生がやがて成長して、高校を卒業する時の進路の選択が大きく広がり、その後の専門学校や大学での学びに繋がり、社会に出た時の生きていく場が格段に広がっていることを考えています。しかし、そのためにも、小学生の時にしっかりとした基礎的基本的な学力を育てることが重要と考えて、この寺子屋事業を実施しています。

したがって、この事業の結果は直ぐに目で見えるものではないかもしれませんが、子供達自身の意思ではなく、大人の都合で困難な状況にある子供達のためにも、長くこの寺子屋事業は継続し、子供達の未来を拓く助けをしていきたいと決意しております。

認定 NPO 法人 Kacotam、NPO 法人セイブアライフ、NPO 法人 IT サポート銀のかささぎ、NPO 法人こどもエコクラブ飯能 W の皆様と、対象となった児童養護施設の皆様方には、心よりの御礼を申し上げます。

一般財団法人日本ライオンズ
副理事長 小野寺 眞 悟

令和 5 年 2023 年 6 月

発行人 一般財団法人日本ライオンズ

理事長 不老 安 正

連絡先 〒 1040031

東京都中央区京橋 1 丁目 2 番 4 号八重洲ノリオビル 5 階

電話 03-6262-6108 E-mail office@lions-zaidan.or.jp



一般財団法人 日本ライオンズ

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目2-4 八重洲ノリオビル5階
TEL.03-6262-6108